

山梨市・笛吹市・甲州市シェイクアウト訓練実施報告書

訓練概要

1 目的

山梨県峡東地域（山梨市、笛吹市、甲州市）に甚大な被害を及ぼすと想定される「藤の木愛川断層」及び「曽根丘陵断層」による地震は、今般、熊本市等に大きな被害をもたらした「布田川断層」及び「日奈久断層」による内陸型のプレート内地震と共通するところがあり、熊本地震における教訓を住民自身の身に置き換えて防災対策を行っていくことが重要である。

このことから、地域内の住民の「自助」の高揚を促すべく、住民誰もが、それぞれの場所で自身の安全確保を行う自主参加型の地震防災訓練（シェイクアウト訓練）を、「効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議（シェイクアウト提唱会議）」の協力のもと実施した。

2 訓練想定

藤の木愛川断層を震源にマグニチュード 7.0 の地震が発生し、峡東地域（山梨市、笛吹市、甲州市）で、震度 7 の揺れを観測

3 訓練実施日時

（1）日時

平成 28 年 11 月 4 日（金） 午前 10 時 00 分

4 訓練内容

（1）事前学習

参加者は、地震に関する知識、身の回りの環境、安全確保行動等について自ら（組織単位や家庭、個人で）考えるととともに、訓練当日に実施する訓練内容についても、各自で計画する

（2）安全確保行動（シェイクアウト訓練）の実施

参加者は、家庭・学校・事業所等で、「緊急地震速報」を合図に一齐に安全確保行動（ドロップ（姿勢を低く！） カバー（体・頭を守って！） ホールド・オン！（揺れが収まるまでじっとして）等）を実施する

（3）安全確保行動の検証

参加者は、実施した安全確保行動等を検証し、家庭やお住まいの地域、職場等の安全対策や災害時の安全確保行動に活かす

（4）シェイクアウト+1（プラスワン）

より実践的な訓練とするために、参加者が家庭・地域・職場・学校等で独自に各種訓練（安否確認訓練、初期消火訓練、避難訓練など）を実施したり、家庭や地域、職場などで安全な場所や備蓄品・非常食の確認を実施する

5 訓練開始の合図（緊急地震速報（訓練情報））

（1）防災行政無線

（2）地震防災訓練アプリ

参加登録者及びアンケート

1 参加登録者数

登録人数 22,385 人（山梨市 5,163 人、笛吹市 12,296 人、甲州市 4,926 人）

（単位:人）

参加単位	市	山梨市	笛吹市	甲州市	計
個人・家庭		0	41	35	76
自治会		0	424	0	424
学校		3,858	6,743	2,717	13,318
保育園、幼稚園、認定こども園		550	1,414	722	2,686
職場(会社、事業所、お店など)		755	1,882	1,407	4,044
その他		0	1,792	45	1,837
計		5,163	12,296	4,926	22,385

参加登録団体

学校(47)	保育園、幼稚園、認定こども園(30)	職場(会社、事業所、お店など)(62)	
加納岩小学校	後屋敷保育園	伊那美装株式会社山梨支店	武藤工業株式会社
日下部小学校	岩手保育園	株式会社小林事務機	有限会社天野組
後屋敷小学校	山梨保育園	株式会社小林事務機甲州営業所	株式会社飯塚工業
日川小学校	八日市場保育園	有限会社タナカ設備	株式会社日工建設
山梨小学校	八幡保育園	山梨中央銀行日下部支店	株式会社上野建工
八幡小学校	窪平保育園	有限会社田辺運輸	株式会社古屋工業
岩手小学校	つつじ幼稚園	フルーツ山梨農業協同組合	風間興業株式会社
笛川小学校	石和第一保育所	山梨中央銀行春日居支店	矢崎興業株式会社
石和南小学校	石和第二保育所	一般社団法人塩山建設業協会	株式会社上組
石和東小学校	石和第三保育所	株式会社飯島工事	株式会社中村工務店
石和北小学校	石和第四保育所	株式会社石川工務所	山梨中央銀行塩山支店
富士見小学校	石和第五保育所	岩波建設株式会社	かんぱの宿石和
石和西小学校	御坂東保育所	植野興業株式会社	笛吹市社会福祉協議会
御坂西小学校	御坂西保育所	塩山舗装株式会社	名湯館 糸柳
御坂東小学校	御坂北保育所	昭和建設株式会社	矢崎興業株式会社
一宮西小学校	御坂葵保育所	株式会社タナベエンジニアリング	風間興業株式会社
一宮南小学校	八代花鳥保育所	株式会社天川組	その他(5)
一宮北小学校	八代御所保育所	天川工業株式会社	御坂児童センター
八代小学校	かすがい東保育所	有限会社樋口土建	地域子育て支援センター こずめす館
境川小学校	かすがい西保育所	株式会社廣川工業所	山梨子ども虐待防止ネット チャイルドファーストやまなし
春日居小学校	芦川へき地保育所	有限会社広瀬土建	笛吹市消防団
芦川小学校	大和保育所	豊栄建設株式会社	のびのびチビッコひろば (子育て支援センター)
塩山北小学校	みいつ保育園	松橋建設株式会社	公共団体等(24)
奥野田小学校	たんぼぼ保育園	株式会社岡本興業	東山梨消防本部
大藤小学校	塩山愛育園	奥山建設株式会社	笛吹消防本部
玉宮小学校	松里保育所	株式会社佐藤建設工業	山梨税務署
松里小学校	東雲保育所	株式会社ちの工務店	日下部警察署
井尻小学校	千野保育園	株式会社藤ブランド建設	峡東地域広域水道企業団
勝沼小学校	塩山カトリック幼稚園	有限会社山梨技建	山梨市役所
大和小学校	奥野田保育所	山梨建設株式会社	笛吹市役所
山梨南中学校	自治会(2)	甲信建設株式会社	甲州市役所
山梨北中学校	笛吹市石和町松本区	株式会社高野建設	流域下水道事務所
笛川中学校	笛吹市御坂町二階区	野澤工業株式会社	新環状・西間東道路建設事務所
石和中学校		三森建設株式会社	笛吹川水系発電管理事務所
御坂中学校		株式会社大和工務店	広瀬・琴川ダム管理事務所
一宮中学校		株式会社甲斐建設	総合県税事務所
浅川中学校		株式会社広瀬土木	食肉衛生検査所
春日居中学校		山梨中央銀行石和支店	果樹試験場
松里中学校		株式会社ジェイ・チーム	計量検定所
勝沼中学校		笛吹農業協同組合	東部家畜保健衛生所
大和中学校		花の丘たちかわクリニック	総合教育センター
塩山中学校		一般社団法人笛吹建設業協会	峡東保健福祉事務所
笛吹高校		株式会社芦沢組土木	峡東林務環境事務所
日川高校		株式会社栗田工業	峡東農務事務所
塩山高校		友愛工業株式会社	峡東建設事務所
ろう学校		株式会社佐野緑化土木	峡東教育事務所
産業技術短期大学校			峡東地域県民センター

掲載許可を得た団体のみ掲載

2 アンケート結果

(1) 回答件数 113件 (HP78件、FAX35件)

参加単位 (複数回答あり)

(単位:件)

参加単位 \ 市	山梨市	笛吹市	甲州市	計
個人・家庭	8	4	3	15
自治会	3	0	0	3
学校	7	2	12	21
保育園、幼稚園、認定こども園	5	0	8	13
職場(会社、事業所、お店など)	27	13	21	61
その他	1	0	0	1
計	51	19	43	114

参加人数

(単位:件)

参加人数 \ 市	山梨市	笛吹市	甲州市	計	回答件数に対する割合
1～10人	25	9	17	51	45.1%
11～50人	16	7	8	31	27.4%
51～100人	1	0	5	6	5.3%
101～500人	8	0	12	20	17.7%
501～1,000人	1	2	1	4	3.5%
1,001人～	0	1	0	1	0.9%

シェイクアウト訓練をどこで行いましたか？（複数回答あり）

（単位:件）

参加単位	市	山梨市	笛吹市	甲州市	計
自宅		9	3	2	14
学校、保育園、幼稚園、認定こども園		13	1	20	34
職場		27	15	21	63
その他		2	1	0	3
計		51	20	43	114

その他の回答は「フルーツ公園」,「万力公園」, 1件不明

安全確保行動以外に、訓練や確認などを行いましたか？（複数回答可）

（単位:件）

回答	件数	回答件数に対する割合
避難場所への避難経路の確認	53	46.9%
家族や職場での安否確認方法の話し合い	16	14.2%
家の周りの危険箇所の確認	14	12.4%
自宅や職場の備蓄品や非常食の確認	19	16.8%
初期消火訓練（消火器・消火栓）	3	2.7%
応急手当・救命訓練（心臓マッサージ・AED操作訓練）	2	1.8%
その他	10	8.8%
何も行わなかった	34	30.1%

その他の回答は、「避難訓練」,「市子育て支援課へ災害被害状況報告」,「園児へのお話」,「身の安全確保の方法」,「市職員地震防災訓練」,「今回の訓練の意味と行動の確認」,「今回以外の場所で災害に出会ったときの判断について」,「自分の周りの予想落下物の確認」,「学年毎に学活の時間に発達段階に応じた安全指導」,「緊急地震速報受信時の行動及び避難経路の確認」,「防災無線の屋内または地区の非常放送スピーカーが全館に聞こえるかの確認」

シェイクアウト訓練の開始の合図は、何で確認しましたか？（複数回答可）

（単位:件）

回答	件数	回答件数に対する割合
防災行政用無線放送	107	94.7%
地震防災訓練アプリ	3	2.7%
その他	4	3.5%
合図が確認できなかった	5	4.4%

その他の回答は、「自主的に」,「校内放送」,「館内放送」,「職場の放送設備」,「拡声器」

次回、シェイクアウト訓練を実施する場合、参加しますか？

（単位:件）

回答	件数	回答件数に対する割合
参加する	107	94.7%
参加しない	2	1.8%
わからない	4	3.5%

意見・感想（回答数39件）

- 安全確保行動しか行わなかったため、関連づけて減災行動をすれば良かった。
- お客さんへの説明がうまく出来なかった。
- 会社で災害時どう対応するのか打合せができた。会社全体で避難場所等を再度確認できた。
- 緊急地震速報からわずかな時間で避難箇所を探し安全確保行動をとるという訓練は初めてだったので、意識を持つのに良い機会になった。
- この時期学校では窓を閉めて授業をしているため、まったく聞こえず訓練ができなかったところがある。
- 今回学校は休みだったが、教職員・全生徒に呼びかけ各自で実施することにした。有意義だと思った。
- サイレン等で注意喚起した後で、放送を流したら、より効果的になったと思います。
- 事前に園児に説明しておかず放送があってから指示を出したため、放送中は指示が聞こえず次回は先に説明しておこうと思った。
- 市のサイレン・放送が、窓が閉まった状態だとあまり聞こえなかった。当日はサイレンを意識していたので何とか聞くことができた。
- 生徒はしっかり取り組んでいた。
- 全校体制で訓練が実施でき、緊急地震速報でどんな避難方法をとるのか体験できた。市の広報にあったシェイクアウト訓練のページが参考になった。
- 短時間で訓練ができるところが良いと思いました。
- とても良い訓練だと思う。家でも話題になりよいきっかけになった。
- 防災意識を高めるきっかけになった。
- 防災行政無線の緊急地震速報を訓練開始の合図とするのは非常に良い。
- 放送が聞き取りにくかった。
- ラジオとCATVで聞いていたがどんな訓練のことなのかイメージできなかった。余りに簡単な訓練で物足りなかった。日本語の訓練名称を使って欲しい。
- 音が聞き取りづらい、話している内容が良く解らない。
- 介護保険課にその時いたが、いまいちわからなかった。職員もやる気があるのか？そもそも一般人が意識して行わなければならないのですか？
- 訓練の時間帯には、職員も児童も意識していたので、放送を聞き取ることができましたが、通常の授業（教師が講義、あるいは児童が話し合いなど）であれば、すぐに緊急地震速報であることには気付かないと思いました。
- 訓練の名称が分かりづらいので、もっと分かりやすい表現にすべき
- 継続することが、大切です。そして、訓練時間でなく真剣に取り組むことが必要です。
- 合図の放送がいつもと違った機械音で聞き取りづらかった。
- 今度は、色々な訓練も一緒にやりたいと思います。
- 今度は、他にも避難などを一緒にするようにしたいと思います。
- 災害訓練の良い機会となった。

- 身の安全確保が出来るスペースが工場にはない。その場合は、どうすれば良いのか。
- 組の人が一緒にやってくれたので、良かった。
- 他の訓練と組み合わせてやってほしい
- 逃げる事を優先してしまい、まず安全確保をするという基本的な動作について考える機会が無かった。昔、学校でやった防災訓練を思い出した。
- 放送は良く聞こえたが、実際の大地震の時で出来るかは不安。
- 防災行政用無線放送を合図にすることを事前に話していたが、放送の音が小さくて、ほとんど聞こえなかった。実際の地震事前予知通報のときはもっと大きな音にしてもらいたい。
- 防災放送が思っていたより音が小さく、聞き取りにくかった。実際に起こった時聞き漏らしが心配である。
- 防災無線が室内ではあまり聞き取れなかったため、初期行動を起こすところがはっきりしなかった。無線放送の音量がもう少し大きいと良かった。
- 防災無線の受信ピーカーが園舎の1階に1台しかないので、全舎に聞こえるよう、機械の数を増やして欲しい。
- 防災無線は良く聞こえたが、言っていることが分かりづらい。訓練スタートの合図なのかどうか良く解らなかった。本当の災害では、合図などはないので、それ位が考える機会になって良いのかもしれない。
- 面白かった
- 良く解らないが職員と一緒に訓練をやった。すぐ終わった。

まとめ

山梨市・笛吹市・甲州市における「広域シェイクアウト訓練」は、気象庁等が実施する緊急地震速報訓練に合わせて、平成28年11月4日（金）の午前10時から実施した。

訓練には、一般家庭をはじめ幼稚園・保育園、学校や企業、公共機関などから、197団体（個人含む）、22,385人の登録参加者を得て、県内では甲府市に次ぐ実施規模となった。

基本的な訓練は、地震発生直後に地震の揺れから身を守るための「安全確保行動」をとることであったが、安全確保行動以外にプラスワンの訓練等を行うことを推奨した。

その結果、訓練後のアンケートによると、回答者の

- ・46.9%の人が「避難場所や避難経路の確認を行った。」
- ・16.8%の人が「自宅や職場での備蓄品や非常食の確認を行った。」

など、約70%の人が何らかの訓練を行ったという結果を得た。

また、今回の訓練では防災行政無線による放送等を合図に避難行動をとっていただいたが、4.4%の人から「合図が聞こえなかった。確認出来なかった。」という回答があったほか、事務局に電話等でも無線放送の音が聞き取りにくかったという意見が多く寄せられており、防災情報伝達における課題が浮き彫りとなった。

さらに、今回の訓練への参加募集の呼びかけは、県及び各市のホームページや広報紙等による広報や、峡東地域防災連絡会議の構成団体や商工会、建設業協会等に協力をお願いしたことから、参加登録者は多かったが、個人や自治会からの参加登録者が少なかったため、住民意識の高揚を図り、より有意義な訓練とするためには、住民への周知と啓発の開始時期及び関係団体への参加依頼など、周知方法に工夫を図る必要があることなどが課題となった。

今回の訓練をとおして課題となった点については、次回の訓練実施においては改善を図り、さらに多くの住民や団体等の参加を得る中で、有意義な訓練となるようにして参りたい。